

歴史を超えた未来へ
～日本とタンザニア連合共和国との友好の懸け橋の一員へ～

梅雨の半ばの6月30日。朝から降っていた雨もやみ、夕日の光が感じられるなか、タンザニア連合共和国マティアス・M・チカウェ大使との初顔あわせが行われました。輝くような笑顔で大槻会長、矢野哲朗会長、佐藤啓太郎元大使、石田理事長、この日の参加者と握手をした後、大きな拍手に迎えられたチカウェ大使。初めてお会いした印象は、大変威厳がありしかもとても寛容で優しい笑顔でした。一気に緊張も解れ、アットホームな雰囲気の中始まりました。



チカウェ大使へ文箱のプレゼント

今回の顔あわせ会は、アフリカ開発協会の矢野先生のご提案・ご尽力により開催されました。矢野先生は“このような会を持つことで日本とタンザニアの更なる発展へと繋げる第一歩となれば”と仰いました。出席された佐藤啓太郎元大使は、タンザニアで大使をなさっていた時代、タンザニアの政治家の方から紹介されてチカウェ大使とはお知り合いだったとのこと。参加者はこの事実には驚きと親しみで、いっぺんに急接近した思いでした。歴史を経てまたこの場で再会出来たこと、その意義は大きいと感じました。タンザニア大使として3年9か月公務に就かれていた佐藤元大使。タンザニアでは、チカウェ大使を含め多くの政治家、経済界のみならず一般国民までも佐藤元大使を今でも慕っている。と伺い改めて佐藤元大使、矢野哲朗会長が最高顧問を引き受けて下さっている一冊の会の偉大さを再認識しました。**大使公邸の三春の滝桜～時を経て満開に輝く**

日本五大桜、または三大巨桜のひとつとして知られる三春の滝桜。今後日本とタンザニア連合共和国との友好の懸け橋として2006年4月18日、日本タンザニア友好協会設立のおり高円宮妃久子殿下の御成り頂き、タンザニア大使公邸に記念植樹を賜りました。その桜は毎年見事な花を咲かせており、11年目の今年も見事な枝垂れ桜が咲いたとのこと。チカウェ大使は就任後初めて日本で迎える春、公邸の美しい桜を日々ご覧になられました。「今日この場で漸く桜の贈呈者にお会いするこ

とが出来 本当に光栄であり、こんなに嬉しいことはない」とたいへん感動しておられました。更に来年は、桜の季節に公邸で友好協会のメンバーと交流会をしましょう。とチカウエ大使が提案されました。 来年が楽しみです。



三春の滝桜 タンザニア大使公邸にて

東日本大震災被災地支援とタンザニア連合共和国

一冊の会が被災地に支援する時は、タンザニア連合共和国の名前を皆さんに覚えて頂きたいという思いで、支援物資の一番上に動物の写真のついたカレンダーを載せて配布しています。タンザニアから支援品として頂いたカレンダーには、象や、キリン、ライオンといった動物の写真がいっぱい。このプレゼントは当時被災した子どもたちに勇気と喜びを与えてくれました。会長と小山さんから当時の様子をチカウエ大使は、真剣な眼差しで聞いて下さいました。大槻会長が何時間もかけて自ら車を運転されて、一冊の会がタンザニアの想いを、届けてくれたことに大変感謝して下さいました。「是非私も被災地を訪れて子どもたちと対話したい」とも語られました。

佐藤元大使のタンザニアでの多くのエピソード、公邸の桜の話、被災地への思い等、本当に終始会話が途切れることなく、参加者にとって大変貴重な意義のある会となりました。これもひとえに当日通訳として、ただ言葉を訳するのみならず、「一冊の会の心」をチカウエ大使へ丁寧に伝えて下さったアフリカ開発協会の長谷川仰子さんのお陰です。本当に心から感謝致します。そして何よりも大使の心を動かしたのは、一冊の会の 52 年の歴史とタンザニアを想う気持ちそのものです。57 年前にアフリカに興味を持ち、勉強をしていくうちにタンザニアという国に惹かれたという大槻会長。識字教育活動のひとつとして 2000 年にはさくら幼稚園を、次にイララ幼稚園の設立にも貢献しました。そんな一冊の会の歴史をチカウエ大使は再認識され、今後も一冊の会との関係をさらに強くし、タンザニアと日本の友好の為に共に活動をしていきたいと、光栄なお言葉に一同感動し大拍手です。

両国の未来を築く、その一歩が友好の懸け橋として、歴史を学び、認識することです。どんな時も心を寄せ合い共に活動をしてきた一冊の会だからこそ今後タンザニア連合共和国と日本の新たな未来を創っていけるのです。

歴史を超えた未来へ、私たち一人一人が平和と友好を担う懸け橋となりましょう

文責：城杉清佳 研究員